

- 日 時：令和6年9月10日（火）14時30分～16時30分
- 場 所：舞鶴西総合会館2階201会議室
- 出席者：加藤部会長、廣瀬副部会長、石川委員、肥後委員、吉岡委員
- 舞鶴市：生涯学習部文化振興課（松本担当課長、田中係長、石原）

《次第》

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 部会委員紹介
- 4 協議事項
  - (1)部会長及び副部会長（編集責任者）の選出について
  - (2)市史刊行に向けたロードマップについて
  - (3)章立て等刊行物の構成について
  - (4)執筆者等の推薦について
  - (5)その他
    - ①執筆要項について
    - ②報酬等取扱基準について
    - ③その他
- 5 今後の予定等
- 6 閉会

《概要》

【協議事項】

- (1) 部会長及び副部会長（編集責任者）の選出について
  - ◎吉岡委員から、部会長に加藤委員を推薦する旨の発言があり、他に意見がなく全員の賛成により、部会長に加藤委員を選出した。その後、加藤部会長の指名により、副部会長（編集責任者）に廣瀬委員を選出した。
- (2)市史刊行に向けたロードマップについて  
〔事務局より、資料2・市史刊行に向けたロードマップについて説明。〕
  - ・市史それぞれの刊行は各年度末と考えてよいか。
    - 事務局／原稿の調整、印刷などを行い、年度末になるものと考えている。
  - ・中世以前の資料編の刊行は、平成10年3月ということか。
    - 事務局／遅くとも平成10年3月でお願いしたい。
  - ・通史の概要版に古代も入っていると思うが、担当しなくてよいという理解でよいか。
    - 事務局／通史概要版は、市史編さん委員会で取りまとめていきたいと考えている。
  - ・京丹后市史をサンプルでいただいたが、通常資料編というのは文字資料とか考古では図面とか遺物の資料を編年か部門別で載せていくというイメージだが。
  - ・資料編を京丹後市の本文編のスタイルで作ろうということか、資料で繋いでいくのではなく、文章で繋いでいくということか。

- ・先日の近世部会でも同じようなご意見を受けた。執筆要項に出てくるが、基本見開きで1テーマぐらいの割り切り方で作っていく。歴史にあまり関心がない市民にも手に取ってもらえるような内容のものなので、資料編という言葉がそぐわないという意見もあり、今後工夫していくという議論もあった。また、それとは別に、掲載できない資料はWeb上で紹介していくというものになる。

### (3)章立て等刊行物の構成について(4)執筆者等の推薦について

[事務局より、資料3・新修・舞鶴市史執筆要項、資料5・舞鶴市史通史編(上)目次、資料6・京丹後市史抜粋について説明。]

- ・京丹後市史は全部で何冊か、構成はどのようになっているのか。
- ・京丹後市史では執筆委員だった。本文編のほかに、考古資料、民俗、建築、美術など約10冊で、A5判も4冊あった。京丹後市史では、既に宮津市史や舞鶴市史ができていたので、他市とは違うものとして、本文編は市民向けで、市民に本文編を読んでもらって、興味のある人には建築編や民俗編など資料編に進んでもらうというものであった。
- ・京丹後市史を真似るような形になっては2番煎じになってしまう。コンセプトは舞鶴市史らしさをやっぱり出さないといけない。
- ・京丹後市史を参考にするのは、読んでもらえるように市民向けにするという点だけでよい。
- ・宮津市史は、内容が細かく専門すぎて全然売れなかった。
- ・京丹後市は合併したことと、これに先行する資料編や本文編はなかった。舞鶴市の場合、資料編や本文編は大部なものがあるので、それを活かして新しい成果を取り入れるみたいなコンセプトにしてはどうか。京丹後市史みたいな形になってもよいが、中のデザインなどは舞鶴らしさを出す方がよい。
- 事務局/京丹後市史は平成20年ぐらいから10年近くかけて作られている。今回舞鶴市史は冊数でいくと9種、例えば文化遺産が5冊だと13冊で結構な冊数となる。特色は分野編が舞鶴らしいというところ。城と城下町、引揚げなどで、特徴を出していきたい。
- ・既刊の舞鶴市史がしっかりあるので、今回の市史はできるだけ多くの人の手に届くように、学校でも利用してもらえる市史としたい。専門家のものは今回冊子としては作らず、Webなどで見てもらう。
- ・資料が語る舞鶴の歴史みたいなイメージ、資料があってもむしろ難しく解釈して書くのではなく、それを平易に書いて、市民が読みやすい、わかりやすいという資料編か。
- ・例えば、京丹後市史の考古資料編は、本文と実測図だけなので、一般市民は全く関心が持てない内容となっている。一般市民からちょっとみて面白い、ページをめくってもらえるような資料編にしたい。
- ・遺跡はご存知のように、1ヶ所掘っても、縄文時代、弥生時代から奈良時代、平安時代というように一つの遺跡の中に時代が重なっているが、章立ては、編年で縄文時代のところは縄文時代のことがわかりやすく書いてあるような構成になるべき。近世部会でもあったが、学校や地域で使おうとすると、自分の校区に何があるのか、どんな歴史があるのか子供たちは知りたい。それは例えばWeb上で府立大学さんのまるまる舞鶴があるが、例えば朝来地域というところで引っぱり出せるようなものは、別に作っておくとよいので、あくまでもこの本

の中では編年的にならべていく方がよい。

- ・時代が隣接する部分は、中世と近世、近世と近代などがあるが、中世をどこまでやるのか、また、文化遺産の美術工芸では仏像や絵画があるが、例えば松尾寺の参詣曼陀羅図の場合、その松尾寺の歴史の中で書けるけれども、絵画と結構かぶるがどのように調整するのか。項目を出してかぶる部分の調整をお願いしたい。
- ・例えば考古資料でも、中世で山城の発掘の成果もある中、経塚もあり、中世までのことは調整できる。
- ・中世と近世の境目は、細川から近世に切り分けようという話になっている。
- ・既刊市史と同じである。
- ・近世部会での章立ては、最初の細川から江戸初期の時期と幕末は編年で、その間は分野別にしていこうという議論になっている。考古、古代、中世は期間が長いので、縦割りは難しいのでは。オーソドックスな編年で、編年の中に文書と発掘資料を時代順に並べていく形でいかがか。もし編年でいくのであれば、第1章第2章第3章をどういうふうに時代区分したらよいかご意見を伺いたい。まず縄文、弥生が一つのかたまりになると思うが、次の古墳、奈良、平安、鎌倉、室町、戦国をまた分離させて、そういう章立てでどうか。
- ・舞鶴の場合、古墳は特筆したものがないので、古代として古墳まででくくってはどうか。原始は日本史ではどうなっていたか。
- ・日本史では、原始は弥生までで、古墳は入れない。
- ・古代は文字が入ってからなので、古墳は入らない。
- ・古墳までが一つ。奈良、平安で一つか。
- ・そうなる。奈良以前は飛鳥とか、舞鶴との関係はあるのか。
- ・平城の資料に少しある。
- ・飛鳥を抽出することは、古代寺院がなく難しいのではないか。
- ・古代の舞鶴と書いておけば、若干入っても入らなくてもよい。
- ・原始が縄文と弥生、古墳から古代でよいか。
- ・そこはいろいろな言い方がある。
- ・考古時代みたいなので一つ、考古学的にわかる時代とする。
- ・原始古墳で、文字のない時代である。
- ・奈良平安が一つのまとまりで、あとは鎌倉からでよいか。
- ・古代という言葉を入れるなら中世という言葉が入るだろう。時代でいうと鎌倉、南北朝、室町あるいは戦国期という言い方だが、もう一つは中世前期、後期という分け方もできるかもしれない。全体のイメージをどういうふうに章立てするのか、章立てのイメージをどうするか。量的には、考古、古代、中世で3、3、4ぐらいか。
- ・古代はあまりない。考古のイメージでは、4、2、3ぐらい。古墳までが4、奈良平安が2、中世が3。
- ・中世では、山城とかは当然考古の人たちに書いてもらわないといけない。
- ・文献の方はどうか。
- ・文献は何とでもなる。考古に合わせて、資料的に見てわかりやすいものがあれば入れて紹介していくことができる。
- ・200ページとして見開き1テーマなら、100テーマとなる。
- ・100か120ぐらいテーマを出して突き合わせて絞ってはどうか。

- ・項目としては、縄文は5項目ぐらいあればよい、弥生もせいぜい10項目あればよい。遺跡はたくさんあるが、その縄文の始まりと、海岸部の遺跡の話と、あと縄文土器を1個1個取り上げて、頑張って3つ4つ、旧石器に触れないわけにいかないの概説で有舌尖頭器の話をして、5つぐらい。弥生でどんなに頑張っても10個ぐらい。
- ・考古と古代と中世をまず今便宜的に3つに分けて、皆さんに項目を資料や写真も含め出してもらい、次の会議で議論してはどうか。
- ・資料に宮津市史の細目次があるが、宮津市史は幅広くとっており、大変参考になる。当然写真がないと話にならないが。
- ・できれば満遍なく舞鶴全体に関わるような出し方がよい。
- ・エクセルファイルに、時代やテーマ、具体的な資料、執筆者名などの記入欄を作り各委員に送るので、それを集約して、次回部会で項目や執筆者を決めていくということによいか。
- ・では廣瀬副部長よろしくお願ひしたい。執筆者の推薦についてという協議事項もあるが、この項目の検討の中で、おのずと執筆者も出てくると思うが、執筆者にお願ひしたい人があれば、出してもらいたい。
- ・市役所の神村さんは、荘園のことを調査しており、以前八木町史にも関わっていた。現在、舞鶴中世史研究会で、その方を中心に梅垣西浦文書をもう1回読み直している。
- ・市の内部におられるのであれば、優先的にお願ひしたらよい。
- ・遺跡では、当然市の松本さんや松崎さんには書いてほしい。  
 ●事務局／今後、項目や具体的中身が固まってきた段階で、あらためて執筆者をご推薦いただけたら、候補者として検討させていただきたい。
- ・古代から奈良について、石川先生に執筆をお願ひしたい。
- ・平安ぐらいなら書けなくもないが、とりあえず項目を出して、どういうふうに割り振っていくか検討すべきと思う。
- ・基本的に資料がベースなので、舞鶴に関する資料をベースにしてどれだけ広がるか。全く舞鶴に関係ない話は書けない。
- ・資料は舞鶴市内にある資料でというよりも、舞鶴のことがわかる、歴史がわかるレベルの高い資料であればよい。
- ・中央の資料も当然必要になる。
- ・文献的には古文書が多くなるかもしれないが、舞鶴の文化や歴史みたいなものの項目を立てることになる。古代はどうか。
- ・奈良は考古で見た方がいいかも、平安になると仏さんが一杯入ってくるので、考古で書けるのは製塩土器の話くらい。
- ・平安は文献がないので考古学的なことが多くなるのではないか。
- ・考古的なものは吉岡委員と相談していきたい。
- ・既刊市史の中に一般的に取り上げられているものがあるが、どの程度それを使うのか。
- ・使わないと歴史は語れない。執筆要項の本市とその周辺の事項に留まらず、我が国全体、大局的な視点が必要だと思う。
- ・例えば丹波から丹後の国が分置されたということは、舞鶴に資料がなくても書かないわけにはいかないと思う。
- ・それは項目出しをする。中世と文献的なことは私がする。あと考古とか、古代

の古いところは、肥後委員、吉岡委員でお願いしたい。

- ・エクセルでそのフォーマットを作ってもらって、写真があればそこに貼り付けたらよい。文書が固まり過ぎていけない、ある程度バリエーションがないと。
- ・文書ばかりだとみんな飽きてしまう。
- ・私の方でエクセルを作って、各委員にお願いしていく。

#### (5) その他①執筆要項について②報酬等取扱基準について③その他

[事務局より、資料3・新修・舞鶴市史執筆要項、資料4・舞鶴市史編さんに係る報酬等取扱基準について説明。]

- ・報酬等の取扱基準に関わって、原稿執筆料や翻刻料など形になるものについてはよいが、そういう形にならない細切れの仕事については、何か報酬がでるのか。次回でもよいのでご検討いただきたい。
  - 事務局／現在、専門部会の運営要領を検討しており、調査などに対する支払い方法などを次回にでも説明したい。
- ・執筆のための現地調査は、この調査と考えてよいか。
  - 事務局／現地調査のほか、委員さん独自の何か調べ物というような調査もあるかと思う。
- ・来年の市の予算は、どのように進められるのか。
  - 事務局／来年度予算は11月ぐらいまでには決めて財政当局に提出する必要がある。このため、11月に第2回会議を開催し、各委員さんから調査のおおよその日数などの分量をお聞かせいただき、予算を見積もっていきたい。
- ・今回、カラー冊子となるので、分布図やイラストの色・形など統一性がほしい。基本となる色やひな形などを提示のほか、専門業者等に任せるなど対応されたい。
- ・写真は古いものを使うのではなく、なるべく新しく撮影した綺麗な写真を使うことが非常に大事だと思う。新しく集めた写真が、市の貴重なデータとなっていく。
- ・舞鶴市や埋文センターが調査した遺物は、白黒なのでカラーで取り直さないと使えない。丹後郷土資料館にもカラー写真はあまりなく、スライドも退色しているものが多く、撮り直しが必要である。
- ・資料収集費用の予算化が必要。1枚でも場合によっては1万円や3万円かかる。
  - 事務局／調査費用の中で、資料収集費とか通信運搬費は見積もっていきたい。
- ・例えば新たに仏像の写真と撮影する場合、ライティングしたりする必要がある。市広報は、市の職員が撮影しているのか、それなりのプロ級の人がいるのか。
  - 事務局／市広報課にもいるが、頻繁になると難しい。
- ・項目を立てた段階で、必要な写真を洗い出ししないといけない。

#### 5 今後の予定等

◎第2回会議の日程調整について、事務局から説明。

以上